回覧

第13号　2020年1月1日発行

大磯のなかまたち

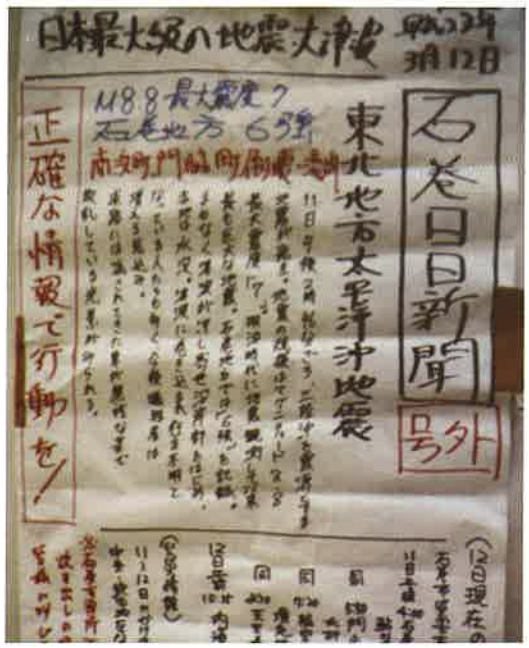
大磯町災害救援ボランティアの会

11月16日 防災講演会を振り返って

講演してくださったのは、石巻日日新聞社常務取締役の平井美智子氏。2011年3月11日東日本大震災の津波被害によって、新聞社の命である輪転機が水没被害に遭い、新聞を発刊できなくなってしまった。TVに映し出される被害状況は、福島原発事故などの大規模な惨状であり、石巻の住民にとって必要な身近な地域の情報はなかなか伝わって来ない。そこをカバーするのが地方紙の責務であるが、新聞を印刷するための肝心な輪転機が使用出来ない。どう伝えるかを迅速に導き出した結論は「手書き壁新聞」であり、震災の翌日3月12日には「壁新聞1日目」を号外として発刊した。地元の状況はテレビでは放映されず、行政からの情報もなく一体自分たちはどのような状況下にいるのかという不安に包まれている石巻住民に、「紙とペン」さえあれば情報を伝えることができたのだ。

写真：高田誠二

壁新聞は手分けして同じものを複数枚作成し、学校や公民館、コンビニなどに毎日6日間にわたり張り出した。内容は地域の安否情報など、避難住民が本当に知りたいものである。



石巻では地震のあとすぐに津波が来ると想定し、日頃より自主防災が中心となり訓練をしていたが、停電のため行政からの的確な情報を得られなくなり混乱を招いてしまった。そのような中で石巻日日新聞社の下した手書きで壁新聞を発刊するという英断は、素晴らしい判断であったと日本のみならず世界中から評価を受けている。

翻って、ここ大磯でもしも同様の災害が発災したらと考える。地域の自主防災が一致団結して、地域住民のための情報をいかにして得るか。そして日頃の避難所設営などの訓練を活かして、どう正確な情報を伝え、住民の安全安心を確保するか。本当に住民が求める身近な地域の情報を、的確に伝えることの重要さを痛感した講演会でした。（新見）

大磯の地形を歩く

箱根町立箱根ジオミュージアム
笠間友博

④ 旧吉田邸下の隆起海岸

旧吉田邸下の海岸には、城山公園の尾根から海に向かってのびる大磯層の岩盤が見られます。台風19号の後にも大きく露出しました（写真1）。岩には貝などが生息していた穴があり、昔は海中にあって砂も被っていなかったことがわかります。1923年の大正関東地震で大磯は、神奈川県水産試験場（当時）によると地震直後で3m余り隆起し、その後は少し沈降し2.55mとなったそうです。地震直後の隆起が数日で下がる事は、房総でも洲崎神社宮司の話として当時の新聞記事で見付けたことがあります。地震後の沈降は、はじめ急速に進み、その後は緩やかになり次の地震まで続きますが、元に戻る前に次の地震が起きるので、結果として隆起を続けます。大磯はそのようにして隆起している場所です。葛川河口寄りの凝灰岩には石材採掘の跡が広がっています（写真2）。昔、西小磯の山本石材店のご主人に伺ったところ「シンドーサキ」の石と呼んでいたそうです。生物の痕跡よりやや高い位置にありますが、同じように砂に埋まっているので、採掘は大正関東地震以前に始まっていたようです。図書館にある旧中郡役所門柱もこの石と思われます。

貝などが開けたさまざまな巣穴がある岩（2019年10月13日撮影）。

四角い採石痕のある岩（2019年10月13日撮影）。

その時を助け合い乗り切るために④

地域防災の向上へ

『避難する』ことが、ここ大磯でも、他人事ではなくなって来ました。皆さんは今回の台風で、どう感じられたでしょうか。避難したくても、避難出来ない理由があるとしたら……。先日私はペットとの同行避難の講習会に参加しました。講習会では、【現在】いかに飼い主以外の人達と折り合いをつけるか、【未来】避難する予定の人達で共助できる理想の避難所を考える、【結果】それぞれの飼い主にとって有効な同行避難が実現するというお話がありました。

他にも、乳幼児を連れた方・身体が不自由な方・介護をされている方など、当事者でないと気づかないことってありますよね。災害時にはどうしても声を上げづらい状況に……。誰もが困るトイレのことも、災害前に快適なトイレ環境を考えておくことが必要だと思います。

そこでワークショップ形式のセミナーを企画し、各地区役員の方々と連携出来たらと思っています。聞くところによると、今回の台風のあと、すぐにアンケートを実施して意見を聞いた地区もあったそうです。皆さんの言動があって、それを反映することが、地域防災の向上につながるのではないでしょうか。（池田）

防災り・チェック〈第4回〉

今すぐ出来る15のこと❷

『東京くらし防災』より「今すぐできる15のこと」をご紹介する第2回です。（テツ＆ゴン）

⑥日用品は多めに買い置きする
⑦行けるときにトイレは済ませておく
⑧生理用品はもう一周期分買っておく
⑨災害時の集合場所を決めておく
⑩公衆電話の使い方を子供に教えておく

大磯町災害救援ボランティアの会は、地域の安全・安心を第一優先として災害時への備えを考えている団体です。一緒に活動していただける会員を募集しています。また、防災に関する情報や質問などがありましたらぜひお知らせください。（新見）

✉ ooniimi@cameo.plala.or.jp
☎ 090-4757-0965

『大磯のなかまたちへ』第13号
編集・発行　大磯町災害救援ボランティアの会
255-0003 大磯町大磯1352-1
大磯町災害救援ボランティアの会事務局
後援　大磯町社会福祉協議会
発行日　2020年1月1日
発行部数　2,000部